

新規事業評価調書

【交通安全施設事業】

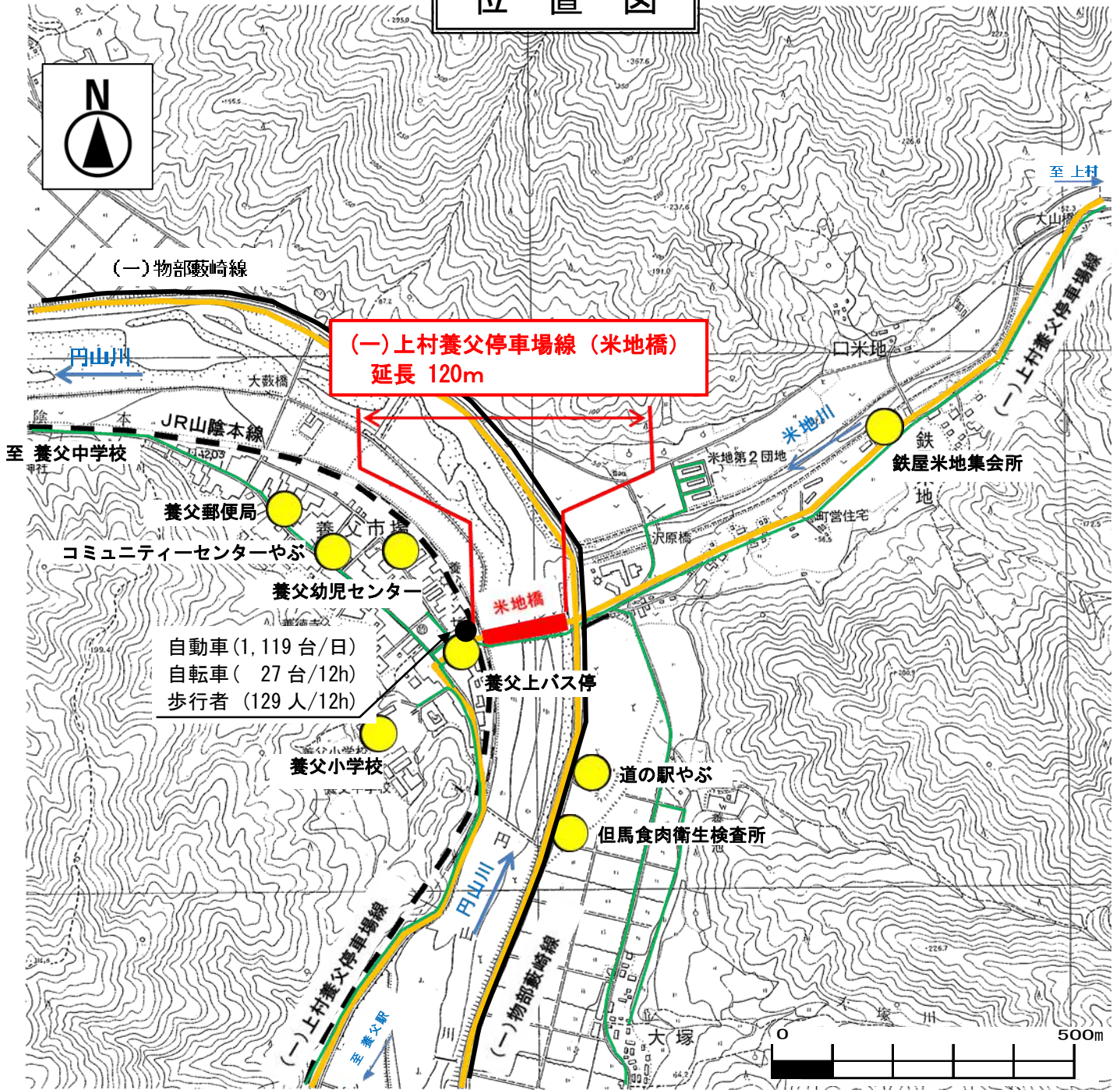
一般県道上村養父停車場線【米地橋】

県土整備部
土木局 道路保全課

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路保全課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 濱 浩二 (主幹 山名 孝志)	内線	4389 (4399)	
事業 種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地 補償費	着手予定 年度	完了予定 年度
交通安全 施設事業	一般県道 ^{かみむら} 上村養父停車場線 米地橋 ^{めいじばし}	養父市 やぶいちば 養父市場	1.8 億円	—	平成 27 年度	平成 28 年度
事業目的				事業内容		
<p>○安全な歩行者通行空間の確保</p> <p>当該区間（米地橋）は、養父小学校の通学路であることに 加え、養父中学校の通学に利用されているが、歩道が未整備 である。</p> <p>また、当該区間の車道幅員は前後区間に比べ非常に狭いこ とから、通学児童等と車両が輻輳し、大変危険な状況となっ ている。</p> <p>このため、張出歩道を整備し、通学児童等の安全と自動車 の円滑な交通を確保する。</p>				<p>歩道整備 延 長：120m 幅 員：2.0m（片側歩道） 現況交通量（H26 年実測） 自動車：1,119 台／日 自転車： 27 台／12h 歩行者： 129 人／12h</p> <p>[負担割合国:55%、県:45%]</p>		
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	<p>① 米地橋は、養父小学校の通学路として利用されているが、歩道がないため、児童（44人）等は狭い路肩（0.25m）を通行せざるを得ない状況であり、特に通学時間帯は通学児童と自動車が輻輳し、大変危険な状況である。</p> <p>② 米地橋は、前後区間に比べ、車道幅員が4.0mと狭く、路肩も0.25mと非常に狭いため、自動車と歩行者の離合でさえ、危険な状況である。</p> <p>③ 養父市^{おくめいじ}奥米地と旧養父町中心部を結ぶ養父市コミュニティバスが運行（5便/日）している。</p> <p>④ 冬季には、橋梁部は積雪や凍結等の危険性があり、自動車と歩行者の分離が必要である。</p>					
(2) 有効性 ・ 効率性 (執行環境状況)	<p>① 歩道整備で歩行者と自動車を分離することにより、通学児童等の安全な通行が確保される。</p> <p>② 用地取得が不要なことから、早期の完成が可能である。</p>					
(3) 環境適合性	<p>① 張出方式による歩道整備であり、河川環境への影響は少ない。</p>					
(4) 優先性	<p>① 交通安全総点検（H26.5実施、養父市・地元住民・小学校関係者等）において、米地橋での通学児童の危険性が指摘されている。</p> <p>② 前後区間に比べ、当該区間は幅員狭小で危険な状況であることから、優先的な整備が必要である。</p>					

位置図

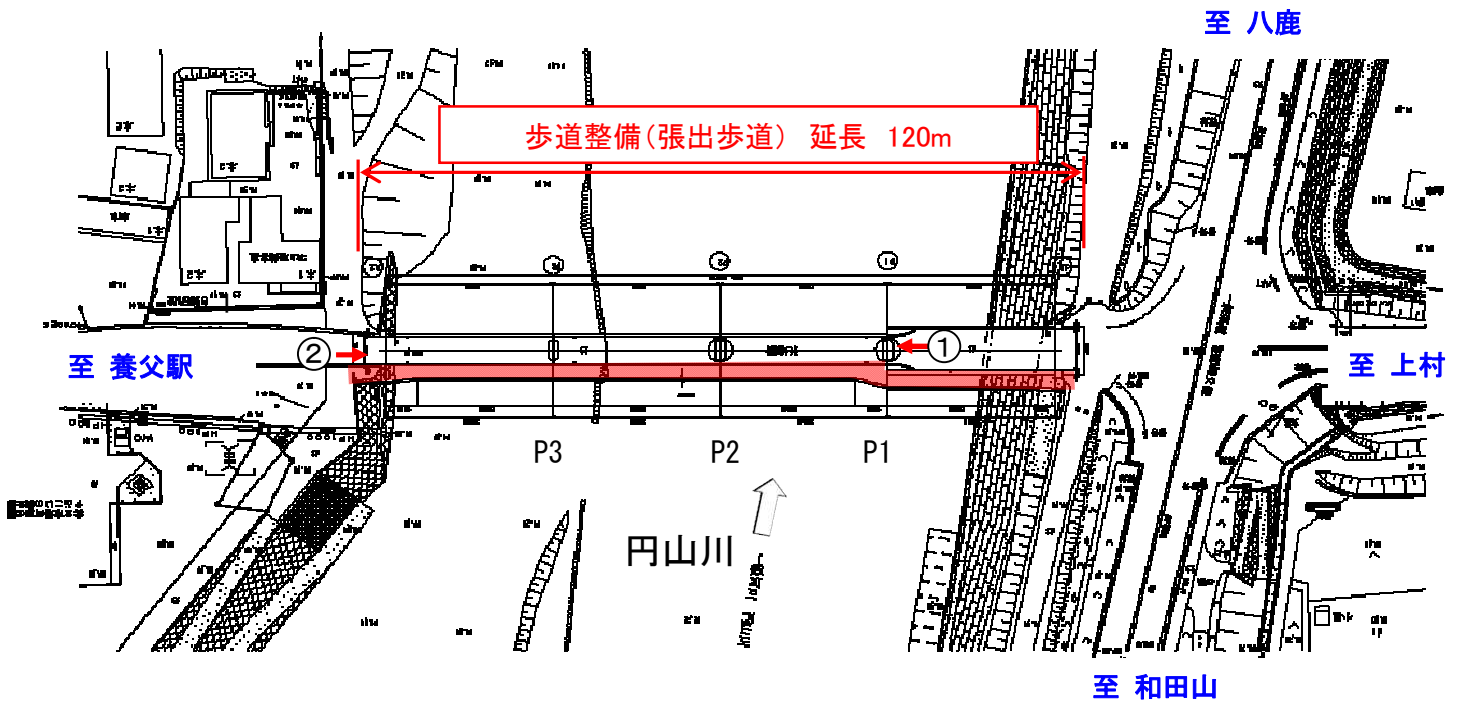


凡例

- 事業区間
- 県道
- 既設歩道
- 小学校通学路



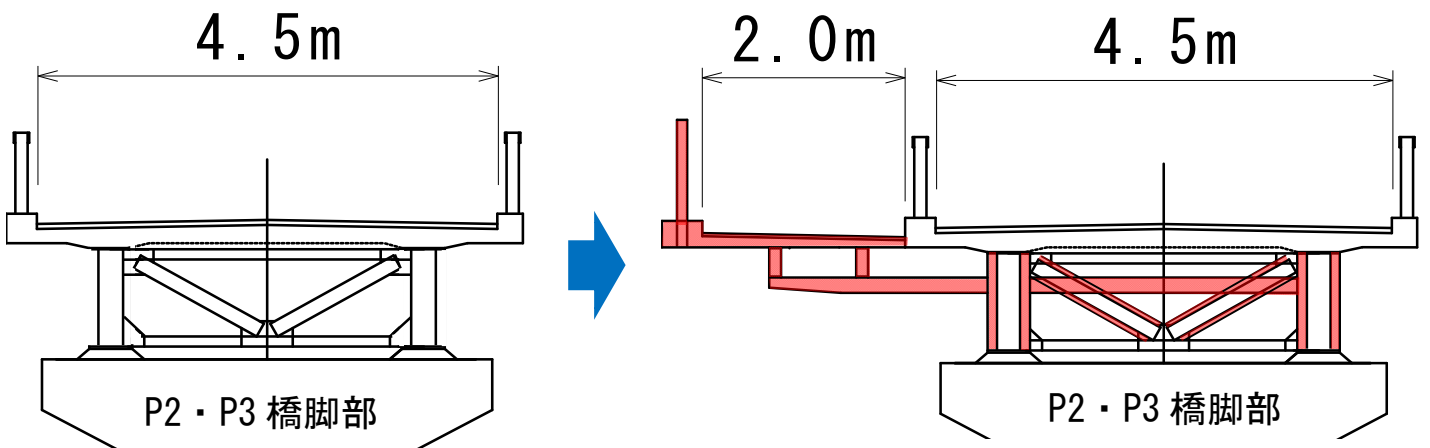
平面図



標準横断図

現況

計画



(他橋梁施工事例)

歩行者通行状況



積雪時は、雪が路肩に堆積し、さらに幅員が狭くなり、危険。

整備スケジュール

工種	平成27年度				平成28年度			
	6	9	12	3	6	9	12	3
測量・設計								
本工事								